

2023新年
メッセージ

古いものは過ぎ去り、 新しいものが生じた

＜Ⅱコリント 5章16～17節＞

総会長 中江 洋一（広島教会）



「古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」
（Ⅱコリント5：17b）

新年に聞くにふさわしい御言葉ではないかと思います。これを、私たち一人一人が、自分の言葉にしたいですね。こう言える年にしたいと思います。

しかし、現実問題、私たちを取り巻く現実というのは、年が明けたからと言ってそうそう変わることはありません。新しい年を迎えましたが、私たち自身は別に何も変わってはいません。では、この言葉を書いたパウロという人は、一体どうしてこのように宣言できたのでしょうか。

パウロが考えているのは、「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです」（17節a）ということでした。キリストと結ばれることによって、私たちは全く新しくされるのだ、それまでになかった自分が新たに造られるのだ、とパウロは言っているのです。この、「キリストと結ばれる」という言葉は、原文では、「キリストの中にある」という言葉です。この「キリストの中にある」ということが具体的にどういうことなのか分かりづらいのですが、パウロが16節で、対比的に繰り返し使っている「肉に従って」という言葉を考えると分かりやすいかと思います。

「肉に従う」というのは、人間の行いとか能力を指しており、「人間の次元で」ということです。それに対して、「キリストの中にある」というのは、「人間を超えた次元で」ということです。しかし、一体どうやって、私たちは人間を超えた次元に行くことができるのでしょうか。パウロは自分が「キリストの中にある」すなわち「人間を超えた次元にある」と言っているわけですが、どのようにしてそういうことが起こったのでしょうか。

パウロがキリストを求めてキリストにたどり着いたのではありません。キリストがパウロに出会ってくださったのです。キリストの方からパウロにご自分を示してくださったのです。

聖書には、神が人に出会ってくださる場面がいくつかあり

ますが、いつもそうです。いつも、神の側から人に出会ってくださるのです。ですから、「キリストの中にある」というのは、キリストがこの私に出会ってくださって、語りかけてくださる、そして私たちがその言葉に留まる、ということです。それが新しい生き方なのです。人間の次元にとどまる古い生き方に対して、神の御心の中に留まる、新しい生き方です。それは、それまでには全くなかった、新しくゼロから創造された生き方なのだと言わなければならないのです。

では、私たちはどのようにして、そのような新しい生き方をしていくことができるのでしょうか。聖書を読むと、神は様々な仕方でも人に出会ってくださり、人に道を示して下さっています。そして、神が人に言葉を与えてくださる時、一番多いのが、人を通して神が語ってくださるという場面です。ですから、私たちとしては、人の言葉の中に神の言葉を聞き取ることができるかどうか、そこにかかっているのです。

相手が何気なく言った言葉にハッとさせられることがあります。もしかしたらそれは神の言葉かもしれません。普段よく聞く言葉だけれども、その同じ言葉を何人もの人から聞くこともあります。それも神の言葉かもしれません。だからこそ、私たちはいつも神の言葉をキャッチできるようなアンテナを張っておかなければなりません。

勿論、聖書を読む時にもです。神の言葉を読む時、それが今、自分自身に語りかけられている言葉かもしれないのです。そして、その言葉を自分の内に収める時、私たちは、神の中にあるのです。それが、新しくされるということです。

新しい年が始まりました。皆さん、心の中に新しい希望を抱いておられることでしょうか。

だからこそ、どうぞ、アンテナを張ってください。神の言葉をキャッチしてください。神の中を生きていってください。神は恵みの神です。新しい生き方をしていく中で、多くの恵みをいただいてまいりましょう。新年が皆様にとって良き一年となりますようお祈りいたします。

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格：2,500円（消費税・送料込み）

※お求めは総会事務所へ

講壇掛・ストール販売



在日大韓基督教会ではKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。

価格は講壇掛・ストール共4色セットで各1万円（約半額）

講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。※お求めは総会事務所へ

KCCJと

宣教協約締結25周年 記念集会開催

関東大震災朝鮮人大虐殺100周年講演会も行う

11月17日(木)名古屋教会で、日本キリスト教会と在日大韓基督教会の宣教協約締結25周年の記念集会が開かれ、対面とオンライン合わせて両教団から約100名が参加した。

記念礼拝では、宣教委員長の趙永哲牧師の司会のもと両教会の代表による日本語と韓国語の祈祷、聖書朗読後、有賀文彦牧師(日本キリスト教会大会議長)の「平和の主に開かれて」(ヨハネ20:19～23)と題した説教、また、中江洋一牧師(総会長)の司式により聖餐式が行われた。

引き続き公開講演会として、「歴史の隠ぺいと忘却に抗い」－関東大震災朝鮮人大虐殺100周年を教会はいかに迎えるか－とのテーマで、特別講師金性済(日本キリスト教協議会総幹事)牧師が講演をした。

約100年前の関東大震災の時に「不逞鮮人」として扱われた人々が、襲われ、捕われ、殺された人災の記憶について、忘却、歪曲、歴史改ざんに抗う強い思いが示され、古代捕囚期の「寄留者の神学」の視座から、現在の「バビロン」「バベル」としての日本社会の現実に、キリスト者として真摯に向き合うことを促された。また、在日外国人へのヘイト、入管の諸問題など、具体的な事例で掘り下げられた内容だった。

宣教協力委員会には、両教会の報告と課題を分かち合い、青年たちの交流を進めていくことなどが討議された。



社会委員会

「外国人住民基本法」制定 のためのリレー集会開催



去る11月27日(主日)午後6時よりオンライン形式で「外国人住民基本法」制定のための全国リレー集会が社会委員会の主催で開催された。この集会は名前の通り、外キ協と各地の外キ連および各教派団体との共催で9回にわたって毎週連続開催された集会である。

講師として弁護士である神戸教会の白承豪長老を迎え、自らの体験も含めて語ってほしいという社会委員長のムチャぶりをこころよく引き受けてくださり、自らの幼年期を思い起こしつつ、なぜ弁護士を目指したのかという動機も語ってくださった。さらに在日の法的地位の変遷を、世も解きながら、外国人住民のための法律が必要であることを強調された。参加者の質問にも丁寧な答えられ、とても学びの多い集会であった。ただ少し残念なのは、参加者が30名未満だったことで、もう少し関心をもって参加することを期待する。

(報告：李根秀牧師)

KPKCJと

大韓イエス教長老会(統合)との宣教協議会開催

KCCJの在日中国人宣教に関する方案に協力

去る2022年11月28日在日大韓基督教会と長きに渡り宣教パートナーとして協力し合ってきた大韓イエス教長老会(統合、PCK、以下PCK)との宣教協議会が大阪府で開催された。

PCKからは、総会長の李純彰牧師、事務総長の金寶鉉牧師など7名の代表が参加し、KCCJからは、総会長の中江洋一牧師をはじめ、総会役員、宣教委員長、各地方会長など12名が参席した。

一行はまずKCCJの別府教会(趙顕奎牧師)を訪問し、協議会においてKCCJから総幹事が宣教協約文書の確認、KCCJの歴史と宣教的現況およびKCCJに仕えているPCK派遣宣教師らの動静などの報告をした。

引き続き宣教委員長の趙永哲牧師が、日本において増え続けている多民族の現状と彼らに対するKCCJの宣教的役割、必要性についての発題があり、多民族宣教のために必要な人材をPCKから送ることを要請した。特に70万人を越える在日中国人に対する中国語礼拝をKCCJ教会内に開設することを望んでいる教会があり、近年中国の宗教政策により中国の本土から追放された宣教師の中から、KCCJ内の教会と協力し合って中国人宣教ができることを希望した。

PCKからは、エキュメニカルコーディネーターの蔡松希牧師が発題し、「グローバル時代におけるディアスポラ宣教」というテーマで、世界的移住民の動向や、ディアスポラ宣教が地域的限界を超え宣教師派遣国と受け入れる国との境界が崩れている中において、PCK総会の宣教神学である「現地の教会との同伴者の関係の中で、人的、物的、知的な支援とともに、お互いの経験を分け合い、正義と平和を作り出し、創造世界を守ることに献身し、疎外され苦しんでいる人々と共同体をなして連帯することに協力していこう」ということが述べられた。

その他、壬辰倭亂(朝鮮出兵)の時、出兵基地であった唐津市の「名護屋城跡」と博物館、統一教が建設し途中で中断した「韓日トンネル」工事現場を訪問し、福岡教会(金仁果牧師)を訪問し交わりの時をもった。



讃頌歌委員会より「子どもさんびか」が 発行されました。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒
集録(いずれも韓国語・日本語)
一冊1,000円

お問い合わせは総会事務局へ
電話 03-3202-5398



関東地方会

新潟教会献堂式挙行

苦節32年にわたる努力がついに結実

2022年11月23日、関東地方会新潟教会において教会堂の献堂式が行挙行された。

堂会長の李在益牧師の司会により始まった礼拝では、基督教大韓監理会の仁川第一教会から支援に駆け付けた李圭鶴牧師（前監督会長）が、「私が愛する教会」（列上8：12～21）との題で説教した。

新潟教会は1990年に関永基牧師により設立されたが、当時は日本基督教団東中通教会のCS室で礼拝を行っていた。

その後1992年から仮屋で30年間礼拝が守られ、この度李在益牧師の献身的な努力と働きや新潟教会の信徒たちの祈りと献金、全国教会、日本の教会の支援が実り、また基督教大韓監理会仁川第一教会の支援により、土地100坪、延べ床面積160坪の物件を購入・リフォームし、長い道のりを歩み献堂に至った。

総費用4,920万円、リフォーム工事は東京中央教会の崔興副執事（元新潟教会信徒）の献身的な助けにより行われたとのことである。今後新潟地域の宣教の拠点として新潟教会が多いに用いられることを祈念する。



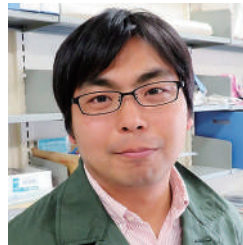
教育委員会

教役者・長老修養会開催

「生きにくさ」をテーマにワークショップ



梁陽日長老



金耿昊執事

11月23日（水・休）午後1時より、教育委員会主催のZOOMによる修養会が開かれた。全国から48名の参加者を得た。第1部は梁陽日長老（大阪教会）による「生きにくさ」をテーマとしたワークショップが行われた。自分が気づかないうちに疲れや消耗感を負っているかもしれないことを、客観的な指標をもとに示され、参加者の多くがもうひとりの自分に気付かされた。これは単純に「奉仕の良き業」という考えだけで乗り越えられるものではなく、現代社会の構造的なひずみやそれと知らず個人に課せられる暴力に根拠があることも示された。

第2部では、金耿昊執事（横須賀教会）による講演が行われた。同じく「生きにくさ」をテーマに、おもに青年にターゲットをしばった講演であった。とりわけ、歴代全協代表を対象にしたアンケート調査の結果が披露されたことが出色であった。アンケートに応じた青年たちの声たちには、「青年」というひとつの言葉でくくれない多様性と葛藤や苦悩の深さが現れていた。

第1部、第2部を通して、教会にとどまらない社会構造の課題と同時に、その影響を受けて教会が背負っている課題が浮かびあがってきた。修養会の終了後、任意で残った方々の声のなかには、青年の教会離れ、社会の周縁におかれ居場所を失った若者たちが教会に集うことで地域社会との間に起こっている軋轢、社会派・福音派という古臭い構図に左右されること、個教会で充足するのではなく、広くしなやかな若者のつながりのあり方など、とても有意義な意見が湧出したほか、いままですら最も有意義な修養会であったという意見や、このテーマは、教役者・長老に限定せず、信徒一般で共有すべきとの意見もだされた。貴重な意見を真摯に受け止め、来年度の活動に資したいと考える。

（信徒委員長 金迅野）

異端対策特別セミナー開催

総会が日本宣教協力会と共催で

本総会と日本宣教協力会が共同主催した「異端対策特別セミナー」が11月27日主日の午後、大阪教会で卓志一牧師（釜山長神大学教授）を講師として招き開催された。

安倍晋三元日本首相が銃撃を受けて死亡した事件から、世界基督教統一神霊協会（旧統一教会、現在の世界平和統一家庭連合（略称「家庭連合」）について社会的関心が高まっている状況に、キリスト教会と統一教会との違いと教義の問題点は何かを学習するために行われた。

日本の教会と本総会所属の指導者と信徒、YouTubeを通じたりリアルタイム講義を担当した卓志一教授は、故・卓明煥教授の長男として韓国似非団研究の専門家であり、統一教会の歴史と誤った教理に関する資料を提示しながら意味深い講演がされた。特に統一教第2世代の被害者である坂野さんが、自分が日本から韓国に行って受けた統一教の不正を告発したのは、参加者に大きな衝撃を与え、被害者のために継続的な祈りと協力の要請があり大きな反響を及ぼした。

卓志一教授は、日本に進出した韓国からの異端の活動を紹介しながら、継続的な関心を持って見守らなければならないことと、教会が異端に対する事前教育と慎重に対処すべきことを強調し、参加した多くの日本教会指導者たちの大きな共感を得て、継続的な研修機会を求めながら盛況のうちに終わった。



卓志一教授招請して行った「異端対策特別セミナー」

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 呉永錫（東京希望キリスト教会 長老）

四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

2023年を迎えた全国・各地方女性会長の抱負

全国教会女性連合会 宋福姫会長



在日大韓基督教会に属する全ての教会、まことのぶどうの木に繋がって生きようとする教会女性の皆さま、明けましておめでとうございます。

まず私個人の2023年は、詩編37:5「あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ。主は計らい。」の御言葉の上にたち、進んでいきたいと思っています。また、全国女性会の会長としてはローマ書8:28「私たちは、神を愛し神のご計画のうちを歩んでいる人のためには、その身に起こることはすべて、神が益としてくださることを知っています。」の御言葉を心に刻み、共に祈り合い、励まし合い、神様と神様が愛する人々に仕える全国女性会になりたいです。神様の愛のしるしであるイエスキリストを心に留めて、新たなスタートをしましょう。主が与えてくださる平安を祈ります。

関西地方女性連合会 金仁姫会長



関西地方教会女性連合会は13教会の242名の女性会会員が属しています。コロナ禍の厳しい状況の中においても、共に祈り支え、主から頂いたすばらしい恵みが豊かに実を結ぶことを希望とし、2022年度の主題を「祈り合いながら、恵みの種を蒔きましょう!」としてまいりました。オンラインで

行ってきた行事を少しずつ対面に切り替え、「交わりの場」の大切さに多くの恵みを受けることができました。

2023年2月には13教会の委員が集まって、個教会の女性会におかれた状況などを話し合う場を予定しています。痛みを共有し、恵みの喜びを分かち合う場にして、お互い弱いところを支え、主が下さった恵みの証を希望と励みにして行きたいと思っています。

すべての事には偶然はなく、神様の計画があると思います。常に祈り、主の御旨にかなうことが出来ることを願います。

関東地方女性連合会 金恵珍会長



関東地方教会女性連合会70周年記念式を東京教会で開催できたことを神様に感謝します。コロナ以後に停滞していた教会の本質を回復し、未来のために協力して連帯するきっかけとなってくださった東京教会にも感謝です。

過去70年間、神様が関東地方教会女性連合会を通して行われた働き振り返り、先輩たちの美しい献身の足跡を見習い、希望の100年に向けビジョンを持って変化と回復を遂げる希望の行進を続けていきたいと思っています。

2023年も、神様の恵みと助けを求めて、ともに手を取り合い連なり、神様を愛し、弱い者に手を差し伸べ、神様の喜びとなる関東地方教会女性連合会になることを願います。

西部地方女性連合会 梁律子会長



2022年は人数制限の中でしたが、西部地方教会女性連合会第35回定期大会を3年ぶりに対面で行えた事は大きな喜びでした。この大会を機に西部女性会では対面で行える方法を委員会で考え、主の導きの中で7月と10月には恵み豊かな研修会をもつ事ができました。西部地方会は地域も広く無牧

教会も多くあります。またコロナ禍の影響で聖書のみ言葉に触れる機会が減った為、女性会の活動再開が難しい教会もありますが、2023年はよりお互いが関心をもち、個教会の現状、祈りの課題など共有し、祈りつつ、助け合う共同体になりたいと思います。『西部女性会だより』の継続、そして離れた所からでも参加できるようオンラインの活用にも取り組み、西部女性会の標語ピリピ2:2「主にあって一つの思いになってほしい」をめざして歩みたいと思います。

中部地方女性連合会 李正子会長



「新年の抱負を」と言われ、今更ながら私の属する組織のアイデンティティについて考えた。中部地方、8つの教会と3つの伝道所からなる地方。教会女性、その地方会に属する教会に連なる女性たち。そして連合会。「連合」とは何だろうか。そこには崇高な、とても気高い理念のようなものが感じられる。

私は「連合」というと、EUやUNのようなものが思い浮かぶ。では何のために国際社会は連合したのだろうか。それは戦争、争い、貧困をなくし、強大な国家の力を抑え、弱く小さな国家を助ける。そんな崇高な目的を掲げ、人類は「連合」という形態を作り上げた。貧富の差がなく、戦争や争いもない……、それはまさに神の国と言ってもいいのではないだろうか。

現在の中部地方教会女性連合会は女性会のない教会・伝道所が5つある。そして13人の委員の所属教会は4つに過ぎない。「連合」にはほど遠く、難しい課題が多くある。しかし新年には新しい扉を開くことができるよう、皆さまの祈りに加えていただければ幸いである。

西南地方女性連合会 李好子会長



2023年度も全国の女性会の活動にしっかりと繋がり、子供たちの支援への協力、聖書の学びの時間を大切に活動へと繋げて行きたいと思っています。

コロナ禍の3年間で対面での交流を奪われ、今まで当然の様に出来ていた各教会女性会との結びつきや励まし合いが違う形へと変化しましたが、対面とデジタル化を通して、あらゆる面で信仰を鼓舞し合い、互いの交流を大切に行きたいと思っています。これからも、この機会を期に個人の意見や各教会女性会の事情も配慮し、ともに分かち合い、交信と交流を以前より活発にし、次世代に繋げて行きたいと思っています。